

# 令和元年度 農山漁村振興交付金(農福連携対策) 事業実施主体 評価一覧

## ●農福連携対策(普及啓発等推進対策事業を除く)

### 4件

農政局等	都道府県	市 町 村	事業実施主体名	事業実施段階				評価	評価コメント
				H30	R1	R2	R3		
沖縄	沖縄	宮古島市	社会福祉法人みやこ福社会	●	—	□		A	平成30年度に野菜類の水耕栽培施設(福祉農園)の苗テラスの照明をLED照明に取り替えることによる、経費の合理化が図られ、より安定的な生産が可能となった。令和元年度は自己資金で地域の事業者と連携したレストラン部門の勉強会を行っており、平成30年度に実施したLED照明による電気料金削減も併せて安定的な生産販売に繋がっている。 雇用・就労、売上げ、交流人口の目標は達成しており、今後も事業の成果を活用した取組が期待できる。
沖縄	沖縄	南風原町	沖縄県精神保健福祉会連合会てるしのワークセンター	●	●	□		B	利用者(障がい者)と支援員の両者が働きやすい環境を整えるために、農作物管理委託、農業マニュアル作成、農作物管理に取組んだ。天候や新型コロナウイルス感染症の影響により就労・雇用、売上げの目標は達成できていないが、交流人口については目標を達成することができている。 また、職員の長期休職に見舞われ、計画どおりの事業実施とならなかった。今後は人員の確保等体制づくりが重要である。
沖縄	沖縄	名護市	社会福祉法人名護学院 (施設外就労コーディネーター)		●	○	□	A	農業と付帯する分野における施設外での就労流域を広め、地域で活躍、交流できる人材(施設外就労コーディネーター)の育成を行うために、施設外実習先援農、加工受入先研修に取り組んだ。 人材育成人数、雇用・就労の目標は達成しており、社会的意義が高い事業でもあることから、今後も事業の成果を活用した取組の進展を期待したい。

沖縄	沖縄	名護市	社会福祉法人名護学院 (農業版ジョブコーチ)		●	○	□	A	<p>障害者の就農定着のための助言を行う人材(農業版ジョブコーチ)を育成することにより、高齢化や人材不足といった農業サイドの課題解決と障害者の就労や雇用領域の拡大といった福祉サイドの課題解決をするために、農業指導専門研修、現場実習、ジョブコーチ派遣に取り組んだ。</p> <p>人材育成人数、雇用・就労の目標は達成しており、社会的意義が高い事業でもあるため、今後の取組の進展を期待したい。</p>
----	----	-----	---------------------------	--	---	---	---	---	--

(注1)「事業実施段階」の凡例：ソフト対策 ○・・・交付対象年度(計画) ●・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)  
ハード対策 ☆・・・交付対象年度(計画) ★・・・交付対象年度(実施済) □・・・目標年度(計画) ■・・・目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分： A・・・優良 B・・・良好 C・・・低調

### 【令和元年度農山漁村振興交付金(農福連携対策)の評価概要】

#### ○特記事項等

今回は、平成30年度採択の2地区、令和元年度採択の2地区の評価を行い、みやこ福祉会、名護学院(農業版ジョブコーチ)、名護学院(施設外就労コーディネーター)は総合評価A、てるしのワークセンターは総合評価Bであった。

A評価である、みやこ福祉会においては、雇用についての実績が目標人数より多く、地域の雇用の場としても大きな役割を果たしている。名護学院はジョブコーチ事業及びコーディネーター事業において、人材育成人数、雇用・就労についての実績が目標を達成しており、人材育成が着実に進められている。

B評価である、てるしのワークセンターにおいても、地域との交流(交流人口)の取組は目標を上回っているなど、積極的な活動は行っており、地域への貢献も大きい。

## 【令和2年度評価委員会の議事概要】

### 【評価委員会】

1. 日 時 令和2年9月30日(水)10時00分～12時00分

2. 場 所 沖縄総合事務局 会議室

3. 出席者

- ・評価委員会委員 3名 (五十音順)
  - 有木 真理 リクルートライフスタイル沖縄社長
  - 幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役会長
  - 杉村 泰彦(委員長) 琉球大学農学部准教授

・評価委員会事務局 沖縄総合事務局 2名【評価委員会】

### 4. 議事概要【評価委員会】

1) 農山漁村振興交付金の評価について

農福連携対策の各実施団体の評価内容(案)について、委員からの意見聴取を行った。

2) 農山漁村振興交付金の評価結果(案)のとりまとめ

上記1)の結果を踏まえ、農福連携対策について、公表用評価コメントを様式にとりまとめた。

### 5. 評価委員会委員の主な意見

① 社会福祉法人みやこ福祉会

30年度に行った福祉農園施設の経費の合理化の取組もあり、安定的な生産が可能となっている。元年度は自己資金で地域の事業者も巻き込んだ研修会等の取組を行い、目標達成している。農福連携の先進地として今後も事業の成果を活用した取組が期待できる。

② 公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会てるしのワークセンター

福祉農園での障害者と支援員の両者が働きやすい環境を整備するための取組を行った。人員確保等の問題や天候による出荷の不安定化により、一部目標について十分達成できなかったが、実施体制を構築していただき、これからに期待したい。

③ 社会福祉法人名護学院(ジョブコーチ事業)

農業版ジョブコーチを育成するための研修会等の取組により、農業サイド及び福祉サイドの課題解決をするための取組を行った。

社会的意義が高い事業でもあるため、今後の取組に期待が持てる。

④ 社会福祉法人名護学院(コーディネーター事業)

施設外就労コーディネーターの育成を行うために、就労実習先の検討や援農先の情報収集や加工施設外就労実習に取り組んでおり、社会的意義が高い事業でもあるため、今後も事業の成果を活用した取組が期待できる。